

介護予防デイサービスにおける男性利用者への固有な支援の検討

－ 3 名の高齢男性への調査分析から －

特別養護老人ホーム天神の杜 氏名 山本 大輔 (009710)

キーワード 3 つ：介護予防 高齢男性 地域とのつながり

1. 研究目的

近年、団塊の世代が後期高齢者になり始め、介護予防が注目されている。しかし地域で行われている介護予防事業や高齢者サロンの参加者の多くは女性という現状である。長年サラリーマンとして勤め上げた多くの男性の場合、地域との関係が希薄であり、こうした交流の場に自ら参加することに抵抗や困難が伴う。結果、地域との関係の希薄さは社会的孤立や、心身の機能低下に陥りやすい。このように高齢男性の支援には、高齢女性と違う支援の特徴があると考えられる。そこで本研究は、高齢男性の地域とのつながりの維持・回復のために参加につなげる必要な支援を、事例分析を通して考察することを目的とする。そのために A 市にある介護予防デイサービス B 事業所の 3 名の男性利用者への参与観察ならびにインタビュー調査を実施した。

2. 研究の視点および方法

本研究は介護予防の対象である（身辺は自立しているものの参加や活動が低下し、要介護状態となるおそれのある）高齢男性を対象としている。そこではまず彼らを支援する介護予防デイサービス※での参与観察を中心に進めた。本研究では、この介護予防デイサービスを利用する 3 名の高齢男性への参与観察とともにインタビュー調査を通じて、利用を開始するきっかけや利用を通じての本人の変化を調査し考察していった。なおインタビューは半構造化形式で行い、グラウンデッドセオリーの方法で分析した。それらを通じて、介護予防デイサービスによる高齢男性への効果的な支援について考察した。

※介護予防デイサービスとは、利用対象者を要支援または市町村より介護予防事業対象者として認定された者に限定した通所施設であり、本研究の調査対象とした。

3. 倫理的配慮

本研究は一般社団法人日本社会福祉学会の研究倫理規定を遵守し行った。また京都府立大学倫理委員会による審査を受け承認を得ている。具体的には、調査対象者にプライバシー保護のための説明を行い、書面による同意を得ている。また文章中の記述では、調査対象者を特定できないようアルファベット表記で匿名化している。

4. 研究結果

調査では 3 名の男性利用者に対し、デイサービスでの様子と支援の変化を時間的経過のなかで整理していった。またそこでは、自宅での過ごし方や介護予防デイサービスを開始

したきっかけ、地域や家族との関係などをインタビューした。インタビュー内容の分析結果からは、①定年退職した高齢男性は地域さらに家庭内でも孤立に陥りやすいこと、②高齢男性の多くは慢性疾患を抱えており、身体機能の低下を自覚していること、③その後は家族や主治医、ケアマネジャーといった第三者による勧めによりサービス利用を開始していること、の3点が明らかになった。

また介護予防デイサービス利用継続の要因は、少人数ケアにもとづく自由度の高いプログラムがあげられた。それは利用時間や活動内容を、本人の意向や好みに合わせて、個別に対応したことにある。さらに介護予防・日常生活支援総合事業制度にもとづくサービスとして、低額な料金で利用できることも大きかった。このことは、介護予防デイサービスが高齢男性にとって安心できる居場所となる要因と考えられる。

5. 考察

本研究では、高齢男性に対する介護予防デイサービスによる固有な支援のひとつに、自由度の高いプログラムの設定があげられる。特にB事業所では、利用時間を一人ひとりに合わせて設定している。一般的に要介護者向けのデイサービスでは、朝の決められた時間に一斉に開始し、夕方まで過ごすことを強いられる。これでは高齢男性にとって、長時間利用による疲労や苦痛がある。それは「することがなく退屈な時間をただ過ごすだけ」になってしまい、利用の継続にもつながらない。つまり利用する明確な目的が高齢男性の場合、サービス利用を促進するのであるため、自由度の高いプログラムの設定は意味がある。

またこうした利用の中で参与観察を行うと、高齢男性は食生活や慢性疾患など、自宅での生活面においても支援を要していることがわかった。一般に高齢男性の場合、食事の用意や家事、金銭管理など生活維持に必要な行為に困難のあることが多い。例えば調査対象者の中には、アルコール依存の傾向のある人や浪費癖のため生活費がすぐに底をついてしまう人もいた。そうした利用者に対し、介護予防デイサービスの利用を通じて生活のリズムを整えつつ、職員は家族やケアマネジャーと連携して生活状況の見守りを行っていった。このことはこれまでの男性は仕事、女性は家事という生活様式からの問題でもあり、そこにも高齢男性への支援が必要であろう。

そして最後に介護予防デイサービスは、地域住民との関わりを構築し、他の様々な福祉サービスを抵抗なく利用することを可能にする入口となる支援が必要になる。それは介護予防デイサービスの利用が、家族以外の人との交流をもたらし、高齢男性の社会的孤立の予防につながるからである。そこでは高齢男性が介護が必要となったときに、福祉サービスをスムーズに利用し、生活の質を落とすことなく地域生活を継続することを可能とする仲介的役割も担うのである。

しかし、まだ十分ではないといえる。そこには介護予防デイサービスの高齢男性に対する固有の支援を実践するため専門的支援者の育成などの課題が山積していると考えられる。